

タイムログは本当に必需品です。 —「タイムログ 60-3」活用事例—

～「タイムログ」活用歴5年（当時） N 様（活用者のお母様）からの声をご紹介します。～

◎活用機器名：「タイムログ 60-3」（旧タイプ） ※長年ご愛用いただいております、旧タイプのものです。

◎活用者：自閉症の中学1年生（当時）。知的にも最重度です。



青ボタンで15分、緑ボタンで30分、黄ボタンで45分、赤ボタンで60分のタイマー設定ができ、3分経過毎に点灯している赤いLEDが1つずつ消えていきます。

◎主な活用場所：子供が部屋で

◎主な活用目的・活用の様子

写真は、いつも音を鳴らして遊んでいるおもちゃを夜遊び終わるために使っている様子です。

（いつまで遊んでいいのかの見通しをもつ）

あと何分してよいのか、対象物の写真をマジックテープでタイムログに貼って本人にわかるようにしています。

他、「スクールバスへ出発する時間」、「おやつまでの時間」、「寝るまでの時間」、「おでかけまでの時間」、「後どれだけの時間〇〇をできるか」等様々な用途で活用。

◎評価

とてもうまくいっています。タイムログが一番わかりやすいようで日々の生活にこれがないと困ります。他のタイマーも使ってみたのですが、やはりタイムログの赤丸が横一列に減っていく方が本人の理解度に合っているようです。

タイムログは15分、30分、45分、60分と設定時間が等間隔でセットされるので、時計がわからない子供ですが、毎日使っているうちに時間の長さがわかってきたように思います。

うちの子にとってタイムログとイヤマフ（聴覚過敏なので）はとても重宝しています。

子供が見通しを持って生活を送るためにタイムログは本当に必需品です。

このような支援機器に出会えて良かったです。有り難うございました。

～改めて、6年後の現在（2014年）の様子と、活用のポイントを教えて下さいました。～

タイムログは、現在も活躍しており、「ごはん」と子供が言いに来た時に、こちらが「15分ね」と答えると、自分で15分のボタンを押して待っています。

幸いこの6年間は故障することもなく、正直金額は高いのですが、品物の頑丈さというか品質の良さ、それとやはり障害児にとっても「見てわかる大切さ」を感じています。

このような製品を取り扱って下さり、出会えたこと、感謝しています。

改めて今感じるのは、「どれだけの時間がたてば次の活動をできるのか」と、

「どれだけの時間今の活動ができるのか」は、意味が全く異なりますので、知的に重い方の場合、

どちらか片方の利用の仕方、もしくはどちらか片方の利用の仕方を覚えたのちに、

もう片方の利用の仕方を教えるのが良いと思います。